

# フィリピンに中高一貫校

## 光星学院(八戸)が来年開設

フィリピンに中高一貫校を開設することを明らかにした法官新一理事長(右)と大谷真樹学長  
=22日、八戸市庁



### 初の海外展開

### 介護分野の人材育成

八戸市の学校法人光星学院(法官新一理事長)は22日、フィリピンに中高一貫校を2018年6月に開設すると発表した。法人のグループ校では、さまざまな国から留学生を受け入れているが、本格的な海外展開は初めて。将来的には、現地の学生を八戸学院大で受け入れ、八戸地域の介護分野などで活躍する人材を育成したい考え。さらに、介

護分野の教育を充実させるため、19年4月にも同大短期大学部に福祉科を新設する方針だ。

法官理事長と八戸学院大の大谷真樹学長が同日、市庁で会見し明らかにした。

新設校の名称は「八戸学院カール高等学校」。フィリピンにある「カール高等学校」の校名を変更し、光星学院と現地の教育財団で共同運営する。

日本語や日本文化を学ぶカリキュラムを新たに導入。大谷学長は会見で「介護だけでなく、製造業やソフトウェアなどの分野でも人材を育てたい」と述べた。

海外からの学生受け入れだけでなく、グループ校の生徒や学生のフィリピンへの留学を推進する。22年には高校、大学合わせて約180人を送り出す計画だ。

学校新設に伴い、留学に関する事務などを担う「八戸学院国際教育センター」を、大学内とフィリピン国内に設置する。

法官理事長は「日本人の学生にとっても、フィリピンとの違いを学ぶ良い機会になると思う」と海外展開の意義を強調した。

(福田駿)